

報恩寺

[東陣]

報恩寺は仏教の浄土宗に属し、16 世紀後半から現在の地にあります。その最も貴重な所蔵品は、中国で宋王朝（960～1279 年）時に描かれたとされる「鳴虎」の絵です。

「鳴虎」の絵は、報恩寺の庇護者であった後柏原天皇（1464～1526 年）から 1501 年に寄贈され、その年に天皇は寺院の拡張を命じました。16 世紀後期に日本を事実上統治した武将の豊臣秀吉（1537～1598 年）は、この絵を気に入り、自身の邸宅に移しました。

言い伝えによると、秀吉はこの絵を床の間に置きましたが、虎が夜の間吠えたと思えて眠ることができませんでした。秀吉はすぐさまこの絵を報恩寺に返還しました。「鳴虎」の絵は 12 年に一度、中国干支暦で寅年の 1 月 1 日から 3 日まで展示されています。「鳴虎」の複製は、予約制にて一年を通して報恩寺で鑑賞することができます。